

# アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



## 令和6年産米集荷結果

農業経営支援課 山村 哲平



令和6年産米は、食味が優れる一方で収量は昨年より大幅に減少し、昨年以上に高温やカメムシによる被害に悩まされる年となりました。早生の「コシヒカリ」だけでなく中生の「きぬむすめ」も高温による心白粒や腹白粒が多く、厳しい結果です。また、カメムシによる着色米が非常に多く、全品種で等級落ちが問題となっています。

### 11月末時点の集荷量

663トン 目標対比53% (前年対比52%)

### 一等米比率

コシヒカリ(早生)

25% (令和5年30%・令和4年39%)

きぬむすめ(中生)

28% (令和5年33%・令和4年42%)

あいちのかおり(晩生)

21% (令和5年21%・令和4年42%)

全体

35% (令和5年34%・令和4年45%)

### 等級落ち理由トップ3

1位..カメムシによる着色粒 (70%)

2位..心白粒・腹白粒 (21%)

3位..胴割れ (1%)

### 対策のポイント

#### 【カメムシ対策】

近年多発している「イネカメムシ」による基部斑点米は色彩選別機により取り除くことが難しいため、色彩選別機を利用する場合でも除草作業や農薬による防除を必ず行ってください。

#### 【心白粒・腹白粒対策】

出穂〜登熟期にかけて、かけ流しかん水や間断かん水を行う事で高温障害による登熟不良を軽減できます。また、堆肥・土壌改良材の投入や秋耕による土づくりによって根張りを良くすることで登熟向上が期待できます。